



「ファンと姉齒と新年会とサザンの関係」

もうすぐ年末です。今年もまた苛酷な連休工事がまっております。私も狭所にはいつくばり、粉塵で汚れ、汗と油にまみれながらも「安全道」を追求していきたいと思いますので、ご協力お願いいたします。そしてそれが終わると新年です。って言うか元旦からやってます(笑)ので大晦日の夜勤が終わるとすでに(!)新年になっています。(笑)

新年というと新年会です。毎年開始10分後にはかぶり物が飛び交い、すでにクライマックス状態になってしまっている新年会も珍しく、宴会係のおばちゃんもあきれれる所を通り越して、

「あんたらがそこまでやるんなら、あたしゃー肌脱ぐよ!!」別に脱いで頂かなくても結構ですが(笑)

といったとても献身的なフォローと暖かい視線に支えられております。(しかしながら一方では会計係の方からの冷たい請求書が送られてくるのも事実ですが...)そして毎年初めて参加される方々から必ず

「社長ってもっと堅い人だと思った!!こんなヒドイ(笑)人だと思わなかった!!」

と言われて、感動のビール一気飲みをさせられてしまいます。(あまりお酒飲めないんで、ほどほどにお願い致します)

この方々には普段のトイレ掃除をしたり、靴を揃えたり、安全、安全とうるさく言っている私しか見えていないのでそう思われるのも仕方ないかもしれませんが、このヒドイ(?)状態の私を何度も見ている方々からすると、逆に安全安全とうるさく言ったり、トイレ掃除したり、靴を揃えたりしている私を何と偽善的と思っているかもしれません。しかし、自分にとってこの2つの面をバランスよく調整することは、とても重要な課題で真剣に取り組んでいるのです。

〇〇工場 ライン。階段登って狭くて長い通路を通り抜け、やっとたどり着いたファンは銘板も油焼けしていて、ほとんど読めない状態。懐中電灯で何とか照らして製造番号を読むとS38、5月製。

「うわ～生まれた月やんか～」

と思わず感動の御対面。そんな丈夫で長持ちのファンは、どれも見事なクリアランスで加工され、組立てられているものです。クリアランスとは「機械的遊び」のことです。ファンのベアリングは必ず**「固定側」と「自由側」**という2つの軸受箱で固定されており、「固定側」というのは寸法がきっちり作られていてベアリングが一切動かなくなっています。片や「自由側」の方はシャフトの熱の膨張が逃がせるようにベアリングを挟み込む両サイドのふたに遊びのスペースが設けられているのです。

もし仮に両方の軸受箱を「固定側」で製作すると、熱で膨張しようとするシャフトが逃げ場を失い、ガタガタと暴れだし、最後にはその振動で自分のシャフトを摩耗させ折ってしまうのです。

組織も同じことで、事故が生じる毎に安全対策の更なる強化を、それに伴って増えるであろうコストのコの字にも触れることなく負わされていく現実の矛盾をイヤという程感じながら、それでも何とかルール通りにやり抜こうとしている現場の人たちの緊張感、心労は相当重く、本当に「安全」というものの本質、あるいは

「もう二度と事故はごめんだ!!」という強い思いがある程**「張り詰めた緊張感を抜く」=「遊び」**という要素をきっちりと組織の中に組み込んでおかないと長く安定的な運営はできないと思うのです。うまく説明はできませんが、ビートたけしさんやサザンの桑田さんが何時までも人々に愛され続けているのは、彼らの中にある**「人間的な遊び心」**の要素が大きく関わっている様に思います。

ただしここで忘れてはいけないのか、ダイヤルゲージを使用して軸受けの芯を出す時に必要になってくる**「許容値」**です。人間の心は常に移ろいゆくものと決まっておりますので、自分では**「指2本ぐらいのハンドルの遊び」**ぐらいに思っているもののまにか**「大型トラックのダラダラのハンドルの遊び」**になってしまうという自覚を常に持ち、日々修正をかけていることが必要絶対条件だと思うのです。

この自覚のない人が「遊び」を肯定するとずるずると際限なく緩み始め、沼地「姉齒」という場所に行き着いてしまいます。「姉齒式」と言えばもう共通語として全国、職場のいたるところで通用してしまう「手抜き」の代名詞となっていることと思いますが、「固定側」軸受をもたない企業の行き着く先だと思っています。

「安全安全ってこんなんじゃ仕事になんないよぉ～」

と普段泣き言ばかり言っていますが、結果的にこの「安全へのたゆまない思い」が「固定側軸受」に「企業理念」になってテクアを支え、資本主義経済が陥りがちな、**利益至上主義の「姉齒沼」**へ向かうことをしっかりガードしてくれています。有り難い事です。丈夫で長持ちないい仕事を、いい思い出と共にこなして行きましょう!!

PS. テクアの本社工場には有線を取り付けてあります。一日中サザンの曲が聴けるようになっております。感謝！

【羽原 篤史】

